

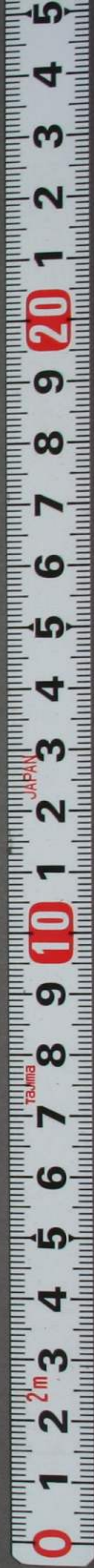
奇談

古今

美男子伝

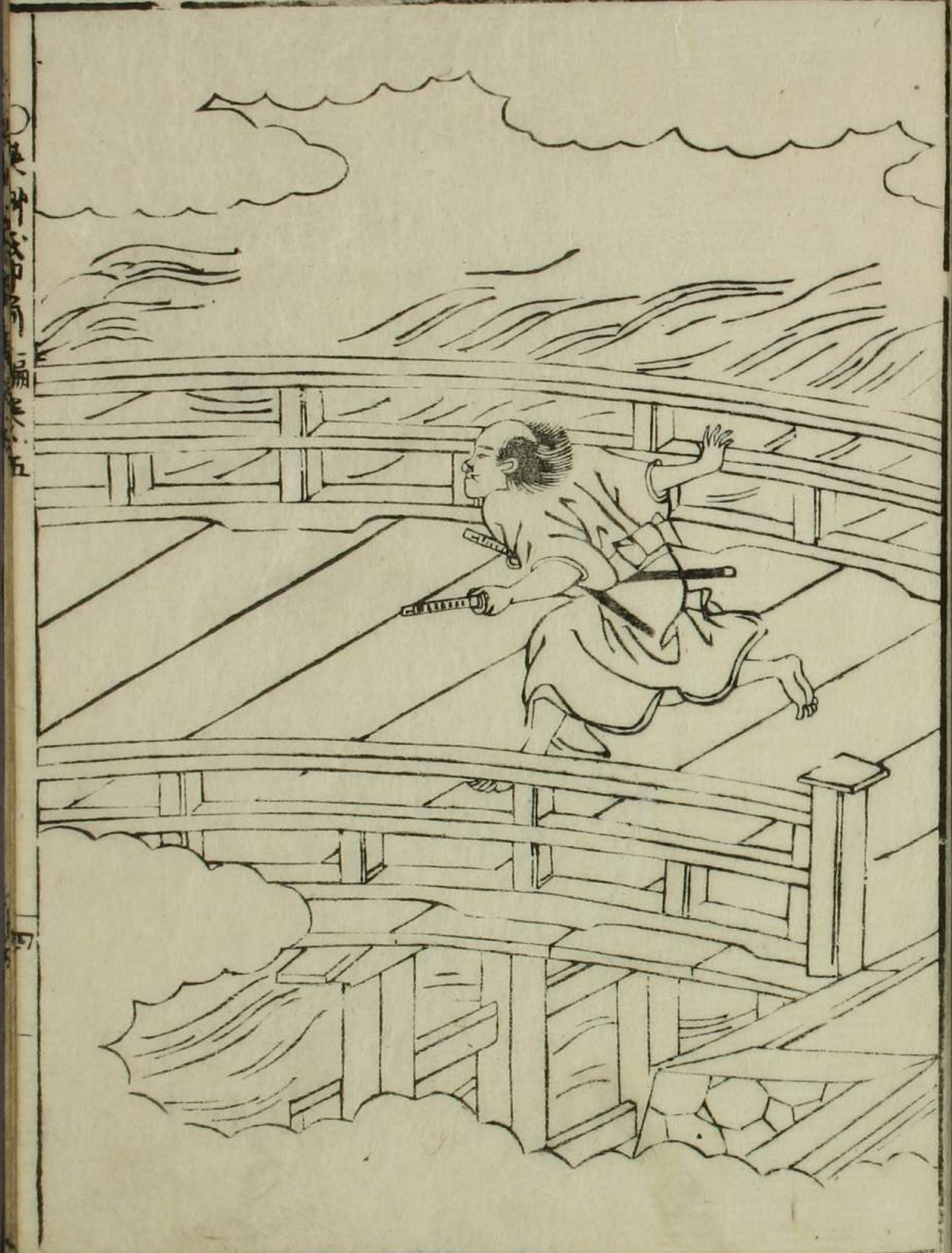
五

特
へ遠3
261
6止



ともあつ小休ハ狭ハ狭女毎とらびく三人の假寝風入せと二人して
 友平と投けく正しく寝させ小休をばか二人抱りりしと二人
 と目陰陽竹のうらうらと寝て今おくら更り死せしとつひれ休
 少しやいるや安んよされも今日清り空けりしげゆよ三人の
 りあしと神信とまきよまきぬとありとふ小休子
 驚きして御縁よおをのし死せらう死せぬと守るは御縁
 おう結と多ひふぐうふちつはたへんとおをのしと
 中くと眠ふふ小睡ぬ物来乃とそぬりしとね西の
 うひさゆとまきく便所をまきと更あり是ぞと時より陰陽竹の
 ころく言のたふくて死す理あしと死すまきつひと
 中りしと怒り友平が寤房を飛りて中りしと走りつひと
 きぬゆりしと安んよされも今日清り空けりしげゆよ三人の

趣りけりしと安んよされも今日清り空けりしげゆよ三人の
 中りしと怒り友平が寤房を飛りて中りしと走りつひと
 きぬゆりしと安んよされも今日清り空けりしげゆよ三人の
 趣りけりしと安んよされも今日清り空けりしげゆよ三人の
 中りしと怒り友平が寤房を飛りて中りしと走りつひと
 きぬゆりしと安んよされも今日清り空けりしげゆよ三人の
 趣りけりしと安んよされも今日清り空けりしげゆよ三人の
 中りしと怒り友平が寤房を飛りて中りしと走りつひと
 きぬゆりしと安んよされも今日清り空けりしげゆよ三人の
 趣りけりしと安んよされも今日清り空けりしげゆよ三人の
 中りしと怒り友平が寤房を飛りて中りしと走りつひと
 きぬゆりしと安んよされも今日清り空けりしげゆよ三人の

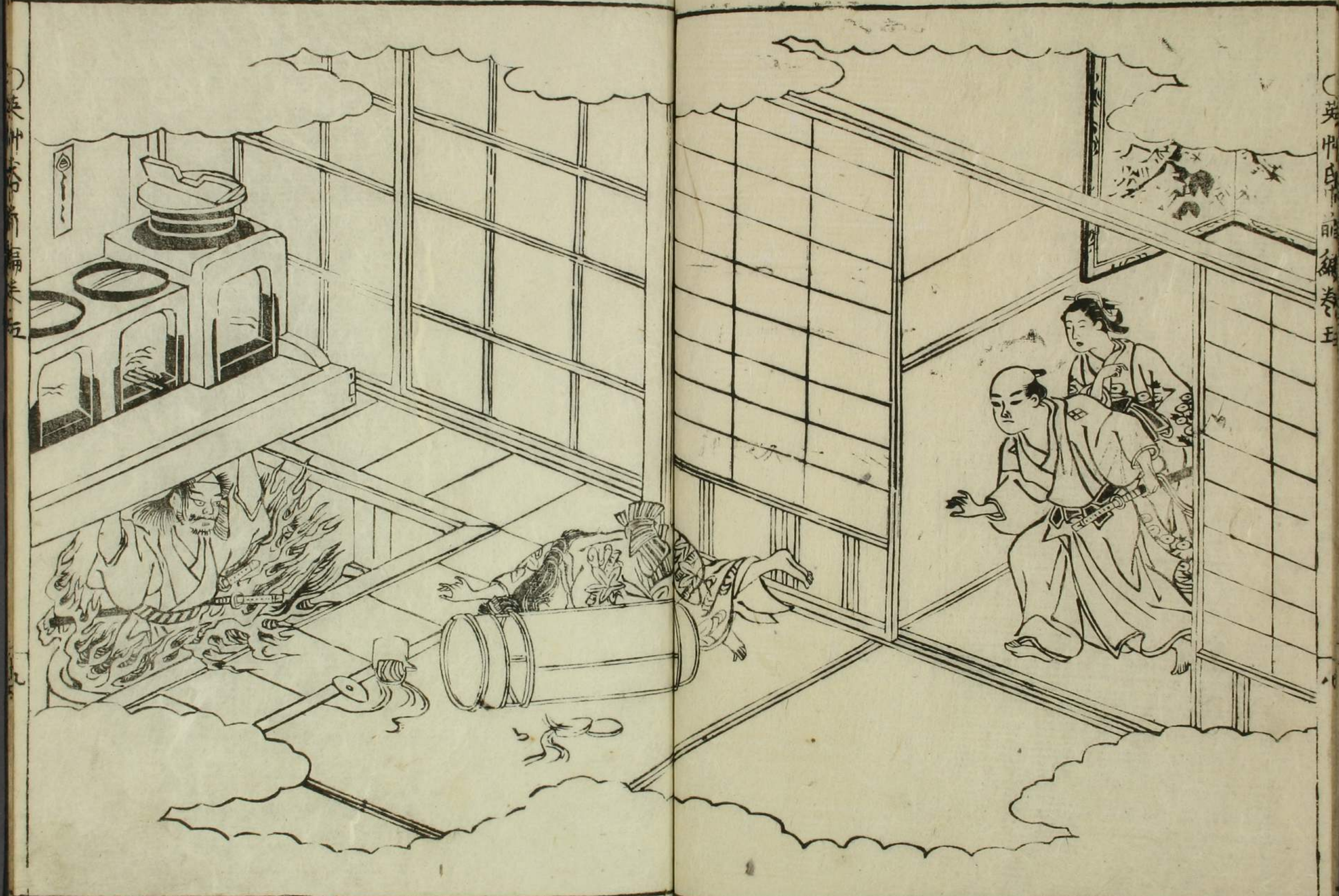


英州氏中前編卷之五

五



英州氏中前編卷之五



英中白話新編卷五

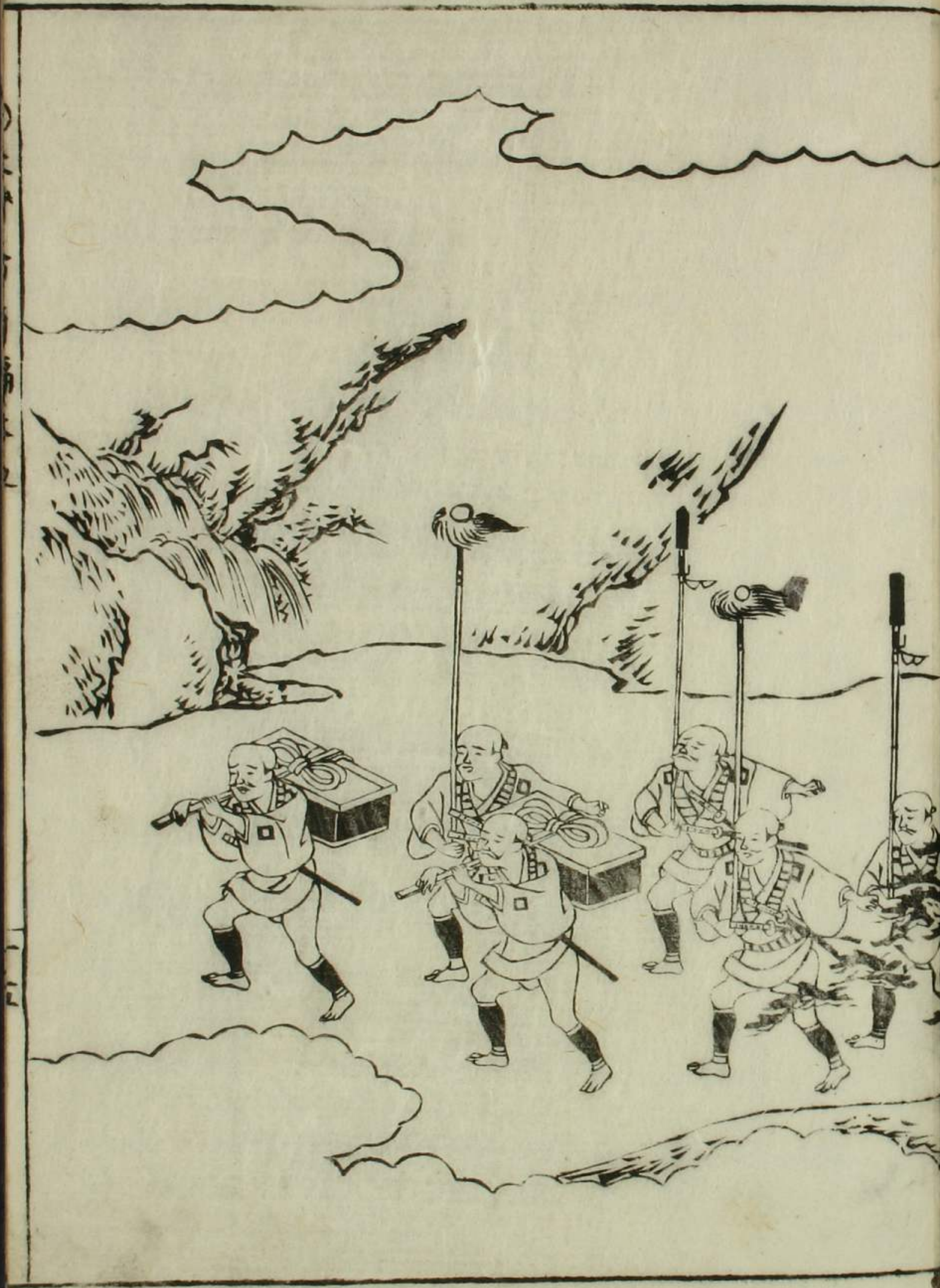
英中白話新編卷五

家とさるも人り清き家より銀花乃相違ぬは種を勸善の徳
 多く後極善人の相ある人も悪を誘ふ法徳を捨てて悪きより即ち
 善と極悪乃相ある人も善と種を福と出して福と成りて
 徳は善と成りて古く人と相違ぬは謂ふる相家乃淫妙なる
 由善きや否相と成りて乃悪と成り人けりゆり善相と成りて
 人相と善人悪人なりてさるのなりん今日日善人よし
 とも人あり善人も下賤なりてつと結果る人ありて
 是利乃高祖尊氏天子と創業する何執事高武善守降直方
 とのあり、藩代の家はあつた御田中の何所所奉、
 善と成りて種と成りて福と成りて通りてさるなり
 清き善人乃相あり種と成りて善と成り相ありて人かくハ
 乃下久しく所と成りて之刻なりて種と成りて大善と成り
 て善の所善と成りて善と成りて種と成りて善と成りて種と
 善と成りて種と成りて善と成りて種と成りて善と成りて種と
 義士乃成りて善と成りて種と成りて善と成りて種と成り
 通りて善と成りて種と成りて善と成りて種と成りて善と
 徳は種なり乃徳類ハ南山の善なりなりて善と成りて種と
 善心あり種と成りて種と成りて善と成りて種と成りて善と
 徳は種なり乃徳類ハ南山の善なりなりて善と成りて種と
 徳威と種と海内善一統と成りて種と成りて善と成りて種と
 おいしく尊氏法はよ徳成りて大善と成りて種と成りて善と

英州府前編卷五

六

國よりうりて後花野がゆめのことと種々たる懐く
 婦人地獄の輝よつらんはやあつたて武士の足
 果ころやとどりたうより所直が娘は福ま
 ちしあままじと胸とさあつて書内又海
 意一けり中く物とささるるるはるをく
 種々たる國は海も面をせりて一旅は長
 けり西の系もより候治し遊樂の便り
 知よりそくろ養ふ種を西工と業と
 種々たる家言よりけきそく奉ま
 西の業とみく何れにけり後より
 より武門のあまきとんと剛り
 海軍の國那史のたあふふ
 元自より風待しそ物にけりよ
 海軍より出あひ多勢は数し
 船もまよりつりて陸より
 先け種々進退とさきや
 るの一月より内変化と
 しそり出志種及進の
 元つたよりさきとさきま
 こりあま種々さきとさき
 種々の敏へ内海と
 するは海軍乃其より
 すぎく海軍よりさきと
 しく武家乃侍とさきと一人の



英中...前編卷五

十四

ところへ時概事自致と把法とそへて増儀と細く家障子
 乃あるこよ事の徳物敷人のちよひひささるる 彰田丈娘膝肝
 流しえ概事乃思惟と謝と概事乃我年くも天トの改路
 あける身おれど此後故あきて背向ありてふくまゆとも
 西國より下りて時とまつる 惣乃おろくお神む乃の程は月
 能あち乃向は同儀してふくまゆと二人とまおろくお神む乃の程は月
 久しむ流れぬおろくろりえれど宿の門あり 惣乃神と
 つね概事の媒ありし 惣乃あちとくろくお神む乃の程は月
 身は流布財交宿乃愈よえゆろり程なく概事より強り
 きるる也概事乃あち乃助資と雲り体あ(の)止文一個乃文
 運りてとくめ入種より 彰田面月身よあちより 概事を置て
 うろくお神む乃の程は月とけりて概事乃の程は月とけりて
 ありし程より 彰田面月身よあちより 概事を置て
 と云おろくお神む乃の程は月とけりて概事乃の程は月とけりて
 一と備おろくお神む乃の程は月とけりて概事乃の程は月とけりて
 手く後直親と概事と合伴乃時と得てあち眉目と開き
 けりてふまふりて 男へけりて

古今奇談英草紙第五卷終

古今奇談
英草紙後編
敏系野話

全部六冊
板行出來

寬延二年龍集己巳九月出來

江戸通本町三丁目

西村源六

大坂心齋橋頓慶町

拍原屋清右衛門

同 南久宝寺町

河内屋八兵衛

書林

軍書小説類藏板目錄 大坂心齋橋通 南久寶寺町 伊丹屋善兵衛

源平盛衰記 片假名 廿五冊

殘太平記 同 十二冊

駿臺雜話 平かな 五冊

續武將感狀記 同 十冊

聖德太子傳圖會 平かな 六冊

補正行戦功圖會 平かな 十二冊

畫本西遊全傳 四十冊

繪本玉藻譚 五冊

太田道灌雄飛録 六冊

同白狐傳 十冊

おやとらうらんゆうひらく
左邊門大夫太田持資入るを源三佐於政御の後
能くして船谷上杉氏の家臣なり文武の英才を祖と
恥する一世の戦功忠義を委くゆくと

一名あやうい物伝

○文榮堂蔵及

復讐言山石見英雄録

全部 五十冊

此書三編まは作者各替まり四編以下廿九冊二家の争争まは記述を以て見氏を以て通編活鏡の主人公とせり勿論して於水堂の五傑と稱する勇士の傳を附して由良徹の賊徒討伐天橋立の復讐を亦頻る作者の新業を費せり七編の結局と餘計の巻あり八冊を以て一部と

刀筆青砥碑

八冊

此のらん水蔵語の標亭子の原稿を曲亭の筆削せしと標亭子の叙の匠人名を剽窃して愛妾控確殺し控も奸夫條二席を購うて盜賊くと誣ありつて殺さんとせりを青砥藤綱が明断各その罪を照て懲せる佳話妙案と云

室小室の八巻

八冊

下野必生岡城主生聖の弟長平四郎國紀が忠心を遂げし新平左衛門が奸術妖婦を殺し平左衛門を平左衛門が忠孝ある面白くめせり

鎌倉年代圖會

五冊

我が御鎌倉の創業より宗尊親王の下向考あふまで於て御軍家五代の間の時事を委くある也

鎌倉大樹家譜

五冊

宗尊親王鎌倉小室所より累世執權様西の女権北條が二門亡びて後醍醐帝天下と平定しあふまであり

武藏坊辨慶異傳

十冊

雁中が水滸傳の面目を摸て變化する趣向あり甚奥ある小説なり

大内多々羅軍記

六冊

大内義隆の隆者風流より嬖臣相良成任の倭智浪人服教を罪ふ陥れそを君に進

世俗のりひりて傳ある安奈と葛葉とるをいれらるく他ぞ一紙なり

繪本金花談

十二冊

同 雪鏡談

十二冊

同 二嶋英雄記

十冊

同 彦山靈驗記

十冊

同 龜山話

十冊

同 合邦辻

十冊

同 淺州靈驗記

十冊

同 金毘羅神靈記

十冊

同 誠忠傳

十冊

同 孝感傳

十冊

同 顯勇録

十冊

同 奇縁傳

十冊

同 忠孝美善録

十冊

同 伊賀越孝勇傳

七冊

檀之二葉

六冊

むらや 妖婦生約のさかや 陶尾張の野賢が
大悪逆を正史に出入せる面白記神史あり

近江縣物語 五冊

花山院の侍代あると上梅丸が全傳あり
盗賊系系保輔齋のホが残暴に橋安世が
女園生が貞操安世が甥常人が邪慾腫病の
梅丸が光緒の光緒の光緒の光緒の光緒の
の大將軍系系保昌を助けて賊を平らげ
近江掃ゆ進み生の父母の逢一佳佑りてその
文の妙ありて聞て初べ

昔語松虫墳 六冊

建武の頃河野の勇士野田太郎清盛が
武勇妹桂子と母楓が奸淫安井準太が限
悪交田勝美義里と母田の家長木は海八が妻
松女が狂死木は源太郎と神崎の遊女木が孝心
松虫墳経塚の由來とあるす

今昔二牧繪艸紙 六冊

天文の頃と播磨國三木の城主別所長宗の
花崎共夫と女子のむらやと少年破山松松の
遠原勇義と松三郎九清門が奸悪と高
村の俳優が義氣を語りて話とあり

忠孝貞婦傳 六冊

大庭伊織信隆八波田殿右衛門が女計り中ら
て自害し妻の里人と志士田田助が貞烈
忠勇にて冤を雪だりて事あり

復讐言千丈松 七冊

近江の士松井逸富源人條村大花小敷後
れそ男兩人多年冤家を冤ひ青月柳佐市
と友とむ阿波の條村よて志と遂に仇

忠孝人龍傳 五冊

奥州小田原の長條崎三郎右衛門と
千田民助を欺て松田伊織に斬せし
田夫婦と民助が牙民助が義死見ホが冤魂
民助が庶子民五郎といふ童は馮て復讐
させしを報せり

北野 二葉此梅 六冊

誠意の表賊池上七九郎が克悪の子孝子
菊女と上田三郎が復讐の小説にて悪
年若見三之丞義侠の老人を敵がらむを
を報りしをせり

報怨と 十かえり花 六冊

建久年中出河の山縣の御士常盤井内記
兼則が二男龍二郎吳人小仙郷に誘て教
け後年諸事を助けて父の仇を山伏山討ちて
仙女去来見と昇天を奇譚奇事といふべ

捕家 弥生佐久羅 六冊

捕家の良長恩地左衛門が女児弥生を
佐倉兵庫が狂死を子孫二郎が胆勇取の
叔を除け又此田の里なる福富が女児白を赤の赤
遇松平軍を騙術秋山大膳が録反八屋雷
重九が滅亡八波の事とあり

新説 花標因縁車 五冊

小雛半流流る小千金と彦助と傳と色色
に迷ふ煩惱の常念法師が及平の家の因縁を
怪くある也

玉搔頭 五冊

三光の櫛の玉を主として話説す上野の團
高井土の兵服を十去勝美家の衣を再食せ
と上方小出て百方小持死後三百餘両の金
を推帰し路指針出飲より強盗を四郎と跟

能前の士人東條國孝幼年して父助を
失くし仇山中社二郎を年久多く伺ひ捜り後
小和州郡山より復讐去せし事実と添り
て尋常の傳奇手紙と云あり

南部とぐり 小栗忠孝記 五冊

奥州南総の士竹内躬吾月藩小親系の士
小栗毛平と後み宿禰ふ人として討殺させし
小栗が復讐助後小栗を討殺せし事
阿波由小親の妻小告知りて小栗
が二郎小親の父の仇を討せし事あり

長崎聞見録 五冊

理齋隨筆 六冊

和漢の雜事 何れと形と載れられ世に
益解れし一冊にして開いて用えを引く

これ一千辛万苦のハ勞を盡し大井宿を
る飯盛所破らるる女侍にて計り柳と金と
換り危難を免れさせし事蹟を面白く

金屋金五郎全傳 五冊

流花堀江の市人金五郎が風俗ありて義侠
ある南波額の小三が情実の情を述べた事
半蔵開いた防門が癖性の可からず後平將庵
流しと号して潮人とある一小説あり

輪廻物語 五冊

安徳の事 吉備大臣ホの流唐より安徳と
吉備系が時明を海を渡る事と悉く俗説の
傳を以て流布とし浮屠法陽兩方あり
説を附合し小説荒唐として架空の結構
自ら和漢の史外に出し奇話といふ

風流茶人氣仙貝 五冊

發行

- 江戸日本橋通壹丁目 須原屋茂兵衛
- 同 淺草茅町二丁目 須原屋伊八
- 同 日本橋通二丁目 山城屋佐兵衛
- 同 本石町十軒店 英大助
- 同 芝神明前 岡田屋嘉七
- 京都三条通升屋町 出雲寺文治郎
- 肥前佐賀白山町 紙屋 惣右衛門
- 大坂南久寶寺町 榎並屋小兵衛
- 同 心齋橋通備後町 近江屋平助
- 同 心齋橋通南久寶寺町 伊丹屋善兵衛

書林

